

# 公立図書館における絵本の排列に関する実態調査

安形輝(亜細亜大学) 大場博幸(日本大学) 大谷康晴(日本女子大学) 池内淳(筑波大学)  
agata@asia-u.ac.jp

【抄録】日本の公立図書館における絵本の排列方法についてハガキによる質問紙調査を行い、全国の公立図書館中央館 1,378 館のうち 1,081 館から回答が得られた(回答率 78.4%)。既往調査よりも画家名順排列を採用する図書館の比率は高まっているが過半数には至っていない。採用している排列方法と図書館の児童コーナーの規模との間に特に関連は見られなかった。一方、地域、都道府県によって差があることが確認された。

## 1. 背景・目的

公立図書館において資料は分類順に排列し、同じ分類の中は著者名順となる。しかし、絵本、特に絵本の大半を占める物語絵本の排列については、著者名順以外に、画家名順、タイトル順、出版社順、大きさ順など様々な方法が採用されている。

2003 年に行われた『公立図書館児童サービス実態調査報告(『日本の図書館付帯調査』)<sup>1)</sup>では調査対象 2,571 館について以下のような結果が得られている。この調査では、タイトル順(調査では書名別)が最も優勢な排列方法となっている。

表 1 公立図書館児童サービス実態調査報告

	館数	構成比(%)
書名別	838	35.0
画家別	579	24.2
作者別	263	11.0
その他	663	27.7
無回答	52	2.2

論文や「児童サービス論」の教科書等の文献でも、複数の排列方法が示されており、特定の排列方法を指示しているものは少ない。

その中で明確に絵本の排列方法について言及しているものをいくつか挙げる。

杉岡和弘は“受入順、刊行年順、著者順、書名順などさまざまな方法を考えることができる。図書館でも絵本を出版社順に並べるところが多い”

と述べた上で<sup>2)</sup>、実際に、兵庫県香寺町立図書館では著者順を採用している。

赤星隆子は『児童図書館サービス論』の中で“絵本の場合は、画家名順で並べるようにするとよい。幼い子にとって絵本は、絵を読み、楽しむ本であるので、絵本架は絵を書いた人の順に並べた方が、幼い子の絵本選びを助けることになる。レファレンスを行う際も仕事がすすめやすくなる点を考えると、作家名順にするよりよいであろう。また、書名で聞かれるからと書名順を採用しているところもあるが、読書会や宿題などの課題で書名がはっきりわかっている場合を除くと大人でもうろおぼえで間違えることが多く、「書名は意外におぼえにくいもの」で安定性がないものである”<sup>3)</sup>と主張している。

また、伊香左和子は“一部で出版社別の配架方法が採用されているが、形が揃うため見た目は整然とするものの利用者にとって使いやすいとはいえない”<sup>4)</sup>と述べている。

さらに、堀川照代は教科書「児童サービス論」の中で“絵本は画家名順に並べる図書館が多い”<sup>5)</sup>と言及している。

以上のとおり、絵本の排列方法についてはさまざまな言説が存在する一方で、最後の既往調査が行われてから約 15 年が経過しており、最新の状況は不明な状態となっている。また、主に児童とその保護者によって利用・検索される絵本について、どのような排列方法がより適切であるかについて検討するためには、第一に、現状と実態を把握する必要があると言えるだろう。そこで本研究では、絵本の排列方法について現在の状態を把握するこ

とを目的とする。

## 2. 調査方法

『日本の図書館 統計と名簿 2017』に掲載されている全国の図書館設置自治体の図書館の本館・中央館(1,378 館) に対して往復ハガキを用いてアンケート調査を実施した。同時に回答者の便宜を考えて、回答用のウェブフォームも作成している。2018年6月4日から2018年7月31日にかけて実施した。ハガキについては締め切り後8月31日までに到着したのも回答に含めた。最終的な有効回答数は、1,081件、回答率78.4%であった。アンケート用紙は絵本の主たる排列方法、それ以外の排列方法(複数回答可)、絵本の所蔵冊数、絵本の貸出冊数という4問から構成されている。返信ハガキには図書館名と管理用の通し番号が印刷されている。

所蔵冊数や貸出冊数については「1000-1500冊」といった形で幅を持たせた回答があった。このような回答の場合、集計のさいには平均値を代表値として用いた。また、「約」「およそ」「程度」といった概数に関する表現も削除した。調査期間中にあったメールや電話での問い合わせ内容、欄外に記入されたコメントについては記録しておき、回答を解釈するさいに適宜、参考にした。

回答は単純集計するとともに、『日本の図書館 2017』の統計データ中の蔵書規模等の項目とクロス集計を行った。

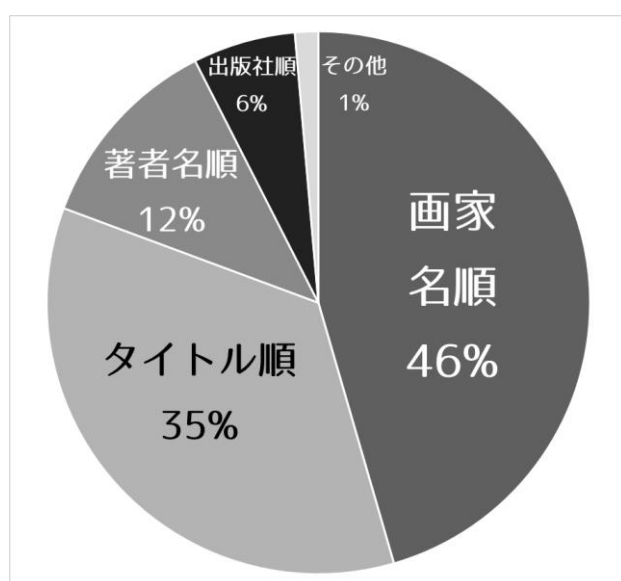


図1 絵本の排架方法(N=1081)

表2 排列方法と所蔵冊数

	回答館数	絵本の所蔵冊数	
		平均値	中央値
画家名順	484	22,642	14,889
タイトル順	376	21,088	15,669
著者名順	128	25,607	12,698
出版社順	66	26,004	18,910

## 3. 調査結果

### 3.1 単純集計

問1の絵本の排列方法を全体的に集計したものを図1に示す。多い排列方法から画家名順、タイトル順、著者名順、出版社順、その他であり、既往調査<sup>1)</sup>に比べて画家順の割合が増えて最も多い排列方法になったことがわかる。

排列方法と絵本の所蔵数や貸出冊数の関係を見るためにクロス集計したものを表2と表3(次ページ参照)に示す。所蔵数については『日本の図書館 2017』の全所蔵冊数とのクロス集計も行ったが関係性を見出すことはできなかった。特に所蔵数(蔵書規模)や貸出数(利用数)によって排列方法を使い分けているわけでないと考えられる。

### 3.2 設置自治体別の排列方法

設置自治体別の排列方法の構成比を集計したものを図2に示す。

他の資料と同様に著者名順としている館が他の自治体種と比べ、多いのは都道府県立図書館である。また、町村立図書館は画家名順が他の自治体種と比べて少ない。政令市立と区立図書館は画家名順が半数を超えている。

都道府県内の公立図書館の最も多い排列方法が都道府県立図書館と一致する割合は都道府県立図書館から回答があった37都道府県のうち19とほぼ半数であった。研修等を行う都道府県立図書館の影響がある程度見られると予想されたが、必ずしも都道府県立図書館と同じ排列方法を採用するわけではない。

ただし、画家名順の割合が低くタイトル順の

割合が高かった都道府県の多くの県立図書館ではタイトル順が採用されている。

表 3 排列方法と貸出冊数

	回答館数	絵本の貸出冊数	
		平均値	中央値
画家名順	460	63,743	31,246
タイトル順	363	51,819	29,310
著者名順	124	53,996	27,676
出版社順	61	77,519	29,070

### 3.3 地域別の排列方法

地域別(六区分)の集計の結果を表 4 に示す。多くの地域では画家名順の排列方法が主流であるが、近畿は画家名順と同程度にタイトル順が多く、九州・沖縄地方では、絵本の排列方法としてタイトル順が他の方法と比較して採用されることが圧倒的に多いことがわかる。

都道府県別に絵本の排架方法全体で最も多い画家順の多い順に並べたときの上位 3 位と下位 3 位の都道府県を並べて集計したものを図 3 に示す。大分県、群馬県、滋賀県ではいずれも県立図書館は絵本の排列方法としてタイトル順を採用している。

## 4. 国立国会図書館所蔵絵本データの分析

絵本の排列方法に関して実際に刊行された絵本タイトル群をいかに効率的に排列できるかという観点で検討が行われたことはない。

国立国会図書館所蔵の絵本を日本で出版された絵本を網羅するものと仮定し、その書誌データから各排列方法の長所・短所について検討を行う。具体的には排列方法ごとに、どの程度著者分かれ、画家分かれが発生するか、大きさの揃わない排列になるかを集計することで行う。

対象データの収集は国立国会図書館サーチのハーベスティング API を用いて 2017 年までに出版された請求記号が NDLC の Y17(絵本)もしくは Y18(外国絵本ただし以前は日本の絵本も含まれる)から始まるデータを収集した。収集された書誌データは 95,831 件であり、そのうち言語コードが日本語である、57,969 件を対象とした。

絵本の排架方法として主流である画家名について検討するためには画家名を識別することが

必要である。画家名、著者名の識別以下の手順で行った。

書誌データ中の責任表示には役割表示が含まれており、著者であるか、画家であるかの判別が可能である。ただし、役割表示の文言は資料のタイトルページや奥付の表記そのままであり、多くのバリエーションが存在する。また、英語の著者名は姓との役割表示と区別が難しいため、英語の姓と考えられるものは除外した。結果として「ぶん」「絵」「話・絵」などの 784 件の異なり表現を得た。役割表示が文のみ、絵のみ、文と絵両方のいずれかであるかを人手で判定し、各作成者の役割を識別した。

今回の調査結果で得られたように実際の図書館で行われている画家名順、タイトル順、著者名順に並べたときに絵本の著者分かれ、画家名分かれ、タイトル分かれ、シリーズ名分かれなどを算出するとともに、排架したさいの書架効率を絵本の高さを考慮して検討した。

## 5. まとめ

全国の公立図書館の中央館・本館に対して絵本の排列に関するアンケート調査を実施した。結果として、1) 過去の調査と比較して画家名順が増加していること、2) 地域、都道府県によって差があること、3) 排列方法と蔵書規模や貸出数には関係がないこと、が明らかになった。

また、国立国会図書館所蔵の絵本データについても分析を行った。

### 【注・引用文献】

- 1) 日本図書館協会児童青少年委員会編『公立図書館児童サービス実態調査報告書 2003』日本図書館協会, 2004
- 2) 杉岡和弘『子ども図書館をつくる』(図書館の現場), 勁草書房, 2005, 210p
- 3) 赤星隆子『児童図書館サービス論』理想社, 1998, 238p.
- 4) 伊香左和子『児童サービス論』(図書館情報学の基礎), 勉誠出版, 2002, 112p.
- 5) 堀川照代『児童サービス論』(JLA 図書館情報学テキストシリーズ), 日本図書館協会, 2014, 240p.

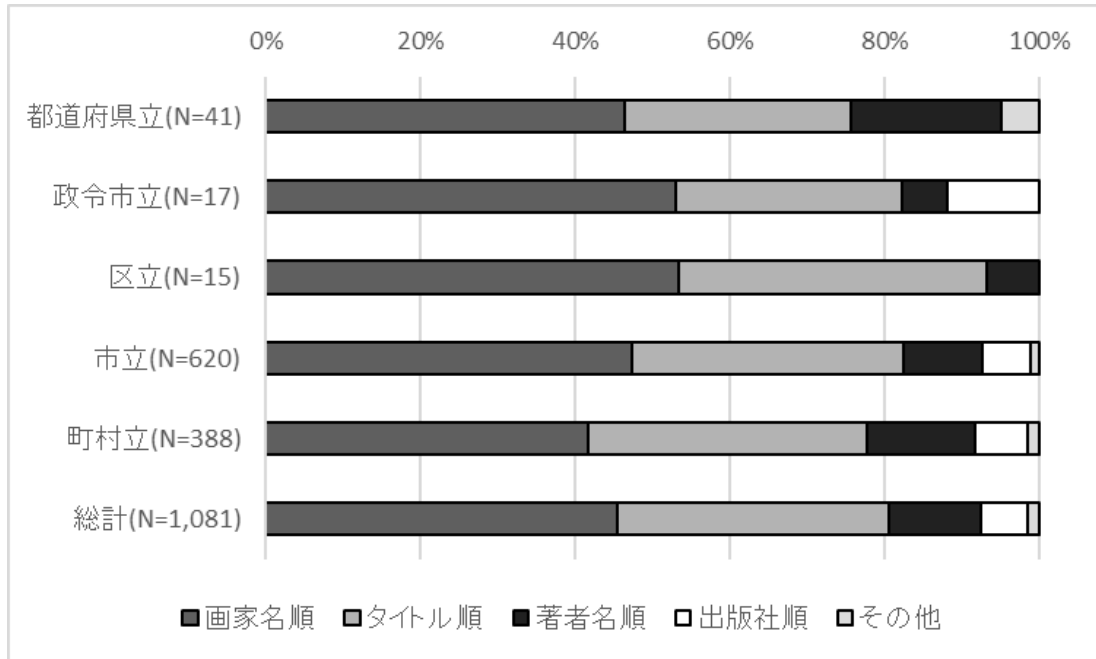


図2 設置自治体別の絵本の排列法

表4 地域別の排列別館数

	画家名順	タイトル順	著者名順	出版社順	その他	総計
北海道・東北(N=192)	96	52	26	15	3	192
関東(N=219)	112	76	18	8	5	219
中部(N=231)	112	71	31	15	2	231
近畿(N=133)	49	50	12	21	1	133
中国・四国(N=144)	82	37	18	4	3	144
九州・沖縄(N=162)	41	94	23	3	1	162
総計	492	380	128	66	15	1,081

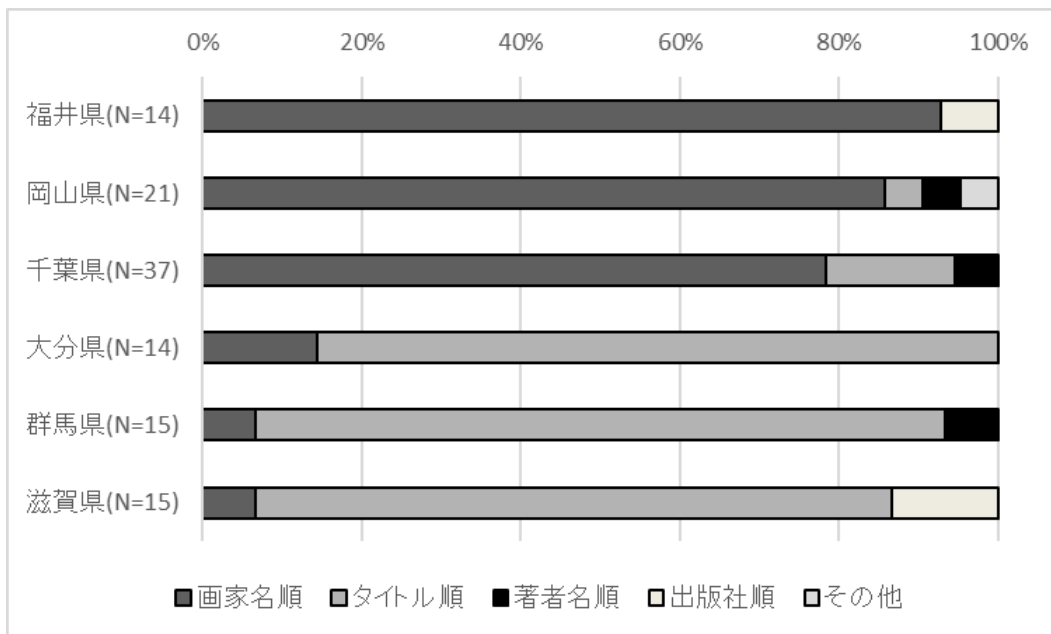


図3 画家名順の割合の高い県、低い県